

個人型 秋山佳樹（川田小学校）

共同研究者 佐藤和紀
（信州大学 准教授）

子どものレジリエンスを育成する授業づくり —地域教材を題材とした探究的な学習を通して—

【探究的な学習の実現】

佐藤和紀先生とのお話を通して、子どもたちが「学び方」を学び、「生涯にわたって学び続けられる学習者」を目指すことがレジリエンス（困難を乗り越える力）の育成につながるのではないかと考えに至りました。ICTを活用した「探究的な学習」を学び方の軸とし、佐藤研究室の学生の皆様も含め月に1回社会科の授業において、学級経営等の観点も含めた多角的な視点からフィードバックをいただきました。改善を重ねる中で特に、心理的安全性を保つことを土台とし「子ども同士で学習状況や思考がわかるように可視化すること」と「学び方を振り返ること」を意識してきました。

【ふりかえりから見えた子どもの変化】

レジリエンスにかかわるアンケートの肯定的な回答が6月⇒7月で増えたMさん。「スプレッドシートを見てHさんが自分とは違う考えでまとめていた」とふりかえり、友だちと自分の考えを比較しながら学習を進めていたことがわかりました。そして、友人関係で不安を抱えることがあるYさん。初めは「今日は一人でやりました」と書いていましたが、次の単元では「今日はT、K、Tさんと一緒にやった。次も協力してやりたい」と協力することの良さも感じ、自己の学び方を見つめより良くあろうとする姿が表れました。

【旧信濃川田駅の今後について考える（総合）】

「川田小には長野空襲で撃ち抜かれた床があり、川田駅にも銃弾の跡がある。無くならないのは戦争の悲惨さを忘れないためだと思います」社会科で「平和主義」について学んだ日のKさんの意見である。これまで学んだ各教科の見方・考え方を働かせ、地域の人々の思いに触れて「情報の収集」と「整理・分析」をしてきた子どもたちが、廃線となった旧信濃川田駅の今後についてどのような意見（「まとめ・表現」）を持ち、ICTを使いながら他者の意見を聞く中で自らの学びを自覚し、どのような「課題の設定」につなげていくかを見ていただきたいです。



共同研究者 佐藤先生から

子ども一人一人が自分なりの良さや苦手を自覚しながら、かつ友だちの学び方や考えの違いを活かしながら、自分なりに学びを進めていけるようになるためには、一人一人の心理的安全性が確保できている状態が極めて重要になってきます。そういった教室とはどういう状態であるのか、子どもたちの顔はどのような状態であるのかを感じ取ってほしいなと思っています。



～日程～

- | | |
|-----------|-------------|
| ① 受付 | 12:50～13:10 |
| ② 開会行事 | 13:15～13:30 |
| ③ 授業公開 | 13:40～14:25 |
| ④ 座談会 | 14:40～15:30 |
| ⑤ ワークショップ | 15:40～16:20 |
| ⑥ 閉会行事 | 16:25～16:40 |